

岡山県総合文化センターニュース

道^⑩しるべ

山陽道と津山往来の道しるべ



上之町
（山陽道と津山往来の分岐点の現在の様子）



道しるべ（岡山市所蔵）

元来、山陽道沿いにあったと思われるが移動して、表町1丁目の西通りに建てられていた

この道標は本来山陽道と津山往来の分岐点に建っていたと考えられる。正面に「左くだりみち」、左側に「右のぼりみち」、右側に「作しうみち」とある。

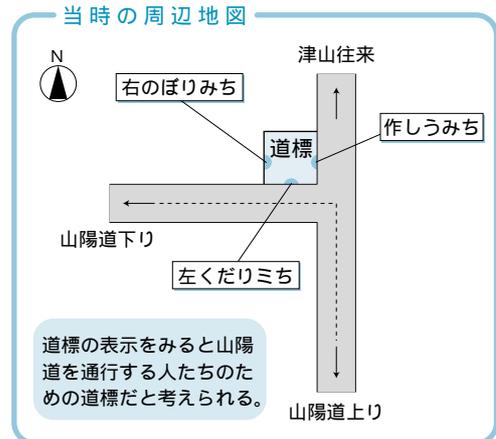
山陽道は京橋から旧西大寺町、旧栄町、旧下之町、旧中之町、旧上之町（現在表町）に至り、ここで西側に折れる。つまり、現在の路面電車の城下停留所付近から岡山駅方面に折れる。

津山往来は旧上之町の中ほどにあった車町から北へ延びていたと考えられる。津山往来は作州往来とも呼ばれていた。

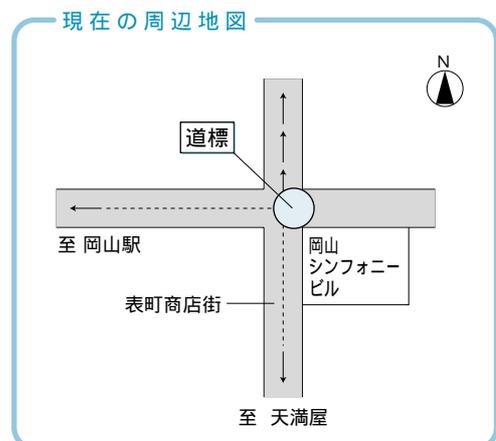
道標が本来建っていたと考えられる地点を推測すると、現在の城下停留所の南西あたりにあったと思われる。（上図参照）

【参考文献】

『岡山県歴史の道調査報告書第1集 山陽道』（岡山県教育委員会 H4）『岡山県歴史の道調査報告書第2集 津山往来』（岡山県教育委員会 H4）『太陽コレクション地図 江戸・明治・現代 第2号 京都、大阪、山陽道』（平凡社 S52）『吉備温故秘録』（吉備群書集成第7輯 S6）『岡山の道しるべ』（巖津政右衛門著日本文教出版 S51）



道標の表示をみると山陽道を通行する人たちのための道標だと考えられる。



平成14年度 岡山県総合文化センター企画展「現代作家の眼」の紹介

アートウェーブ岡山・巡回展

- 展覧会名 「現代作家の眼」アートウェーブ岡山・巡回展
映像 視覚と日常
 会 期 平成14年11月13日(水)~12月1日(日)(月曜休館)
 会 場 勝央町郷土美術館(勝田郡勝央町勝間田635)
 主 催 「現代作家の眼」展実行委員会、岡山県総合文化センター
 岡山県教育委員会、勝央町教育委員会
 入 場 料 無料

このアートウェーブ岡山・巡回展は、県内で活躍中の美術作家によるジャンル別の選抜展を、県内市町村の美術展示施設で開催するものです。

今回は、近年注目されてきている写真や映像による作品展を、勝央町郷土美術館を会場に開催します。

美術の表現は、絵画や彫刻といった従来の様式にとどまらず、現在では極めて多様な広がりを見せてきています。その中で、写真や映像による表現は、メディアの進化と相まって、ますます身近な表現手段として可能性を拡大してきています。

その一方で、従来の写真や映像の技法に基づきつつも、その表現内容や方法が、アートとして認識できる作品を生み出す作家が、県内でも少なからず活躍しています。

この「映像 視覚と日常」をサブタイトルとした本展は、写真を含んだそうした映像作家13組の作品にまとまった形で触れることのできる、県内で初めての機会となるものと思います。ぜひご期待ください。

なお、勝央町会場終了後、この展覧会は引き続いて次の会場で巡回展示いたします。

- 会 場 高梁市歴史美術館 高梁市原田北町1203 - 1 高梁市文化交流館2階
 会 期 12月5日(木)~12月23日(月) 10日(火)、15日(日)休館



能登 勝「M」
(16mm)



川上まさ美「記憶に咲く花」
(ゼラチン シルバー プリント)

..... 次回の企画展予告

アートウェーブ岡山・コラボレーションポエム 2003 展

- 会 期 平成15年1月22日(水)~2月2日(日)
 会 場 岡山県総合文化センター 第一展示室
 主 催 「現代作家の眼」展実行委員会
 岡山県総合文化センター
 岡山県教育委員会

県内在住の美術家と詩人がペアを組み、ジャンルを越えて共同制作(コラボレーション)した作品、25点を展示します。

おかやま人物往来 (70)

松平一族 (津山松平家について)

元禄10年(1697年)に森家が断絶し、その後、松平宣富が津山へ入部する。宣富は徳川秀忠の兄である結城秀康の子松平忠直の長男光長の養子である。つまり結城秀康の嫡孫の養子ということになる。

松平忠直は秀康の長男で、叔父秀忠の娘を室に迎えていたが、將軍家に対して不遜な行動がめだち改易されて豊後国萩原に配流される。

松平光長は父忠直の跡をうけて越前国北庄75万石を継ぐが、越後国高田25万石へ転封となる。天和元年(1681年)に越後騒動と呼ばれる御家騒動により、光長は改易され、伊予松山藩の預りとなった。

結城秀康の家系は松平氏の中でも越前家と呼ばれ、徳川一門の中で御三家に準ずる格式を誇っていた。この越前家の嫡流が光長の養子宣富により、津山藩10万石で復活することになる。宣富の実父は光長のいとこにあたる直矩である。

松平宣富の長男である松平浅五郎は6歳で家督を継ぎ11歳で死亡している。そのため再び断絶の危機にみまわれるが、宣富の弟である松平知清の子長熙を養子に迎えて断絶を免れた。しかし津山松平家は10万石から5万石に減封される。長熙の官位は従四位下越後守で、石高に比べて官位が高く、官位の面で優遇されている。長熙の死去の際に一族の松平長孝が養子となり、跡を継いだ。この長孝の子が松平康哉である。

松平康哉がまだ光丸と名乗っていた宝暦12年(1762年)に、父長孝の死去により11歳で家督を相続した。

康哉は明和八年(1771年)から藩政改革に着手する。この改革に大きな影響を与えた人物が儒者

大村莊助と飯室莊左衛門である。しかし康哉の改革はあまり効果をあげなかったようである。

康哉は、8代將軍徳川吉宗の孫で老中となった松平定信と親交があった。このことは松平定信の『宇下人言』に記されている。定信は康哉を次のように評している。『人となり博学弁才無双、相学、天学をなして高談をよるこぶ。いかがしけん、予をば至ってしたしみて、つねに來り訪ひ給ふ。相客あれば來り給はず。これ又偉人なり。』このように定信の康哉に対する人物評は高いものであった。康哉と定信は政治や經濟についてしばしば論じていたようである。

康哉の死去により跡を継いだのは康哉の子松平康又である。康又は20歳で死去したため康哉の子で康又の弟である松平齊孝が康又の養子となって跡を継ぐ。

松平齊孝が11代將軍徳川家斉の子を養子にしたために5万石を加増され、藩領が10万石に復旧することになる。ちなみに齊孝の「齊」の字は將軍家斉の一字を賜って改名したものである。このようにみえてくと津山松平家は將軍家から特別待遇を受けていたことがわかるだろう。

【参考文献】

「津山市史 第四卷 近世」(津山市史編さん委員会平成7年)「日本人の自伝 別巻」(平凡社昭和57年)「鳶魚で江戸を読む」(山本博文中央公論新社平成12年)「徳川諸家系譜」(続群書類従完成会昭和57年)「津山藩主森家、松平家一族の歴史」(津山社会教育文化財団森本謙三平成3年)



美作国絵図
(岡山県総合文化センター画像提供システムより)
松平の名が記載

うち当館の参考図書 (124)

「新訂 緑茶の事典」

(高野實・谷本陽蔵・富田勲・中川致之・岩浅潔・寺本益英・山田新市執筆 2002.6 柴田書店)

「日常茶飯事」「茶化す」「お茶を濁す」「茶の間」といった言葉が表すように、お茶は飲食物としてだけでなく、我々の生活に深く関わっている。あまりにも当たり前すぎて、お茶についての本を読んだり、詳しく調べたりといったことは案外少ないのではないだろうか。実際、お茶の正しい入れ方を知って、実行している人はどのくらいいるだ

ろう。この本はお茶の「事典」であるから、お茶に関する事柄を五十音順に引けるのだが、その他にも茶の起源、製法、おいしいお茶の入れ方、古くなった茶や茶殻の利用法、茶のことわざなども書かれている。中でも注目すべきは茶の健康効能である。茶に15%前後と大量に含まれているカテキンの老化防止、食中毒予防、虫歯予防、風邪予防、ダイエット効果など、驚くべき働きの数々を紹介している。その他にもビタミン類やミネラル、フッ素なども含まれており、「粗茶でございます。」などとはお茶に対して(?)失礼なのではない気になってくる。



新着郷土資料紹介

- 蓮正寺史 蓮正寺史編纂委員会編、発行 2002 833円
- 高梁教会百二十年史 高梁教会120年史編さん委員会編 日本基督教団高梁教会発行 2002 224円
- 能勢勝右衛門の時代 岡山藩寺社奉行 高柳利一著 吉備人出版発行 2002 197円
- 岡山の戦争・戦災遺跡マップ 岡山の戦争と戦災を記録する会作成、発行 2002 1枚
- 森近運平像の変造 “親友” 高見の語ったもの 洲脇出著、発行 2002 16円
- 泣菫小伝 1 三宅昭三叙述 薄田泣菫顕彰会発行 2002 46円
- アメリカに生きて 帰米二世の六十四年 脇本功著 脇本和子発行 2002 151円
- 山田方谷 郷土の偉人 方谷を学ぶ会著 中井地域まちづくり推進委員会・中井公民館発行

2002 125円

行政執行の実務 岡山市違法建築物除却事例から学ぶ 岡山市行政代執行研究会編 ぎょうせい発行 2002 295円

車イス対応トイレマップ 岡山市中心部11カ所 岡山県全域103カ所 岡山県保健福祉部障害福祉課編、発行 2002 1枚

岡山県スゲ属植物図譜 岡山県カヤツリグサ科植物図譜 1 星野卓二ほか著 山陽新聞社発行 2002 229円

岡山建築散策マップ 岡山県建築士会建築マップ編集委員会編、発行 2002 202円

おく男女共同参画基本計画 ゆう・ゆう・おくふれあいの邑づくり 邑久町企画振興課編 邑久町発行 2002 79円

岡山県NPO法人活動紹介 共に支えあうコミュニティを目指して 岩満賢次作成、発行 2002 88円

岡山県内のソフトウェア企業ガイド 岡山県産業振興財団編、発行 2002 5,131円

新着外国語図書紹介

復興

Report from ground zero : the story of the rescue efforts at the World Trade Center

(by Dennis Smith / Viking / 2002)

2001年9月11日の朝、ハイジャックされた2機のジェット機がワールド・トレード・センタービルのツインタワーに衝突したのを知るとすぐに、元消防士のデニス・スミス氏は救助活動のボランティアを申し出た。行方不明になった消防士は343人にのぼったが、その多くが彼の友人であり長年の同僚であった。スミス氏は復興の第一線に立ち、グラウンドゼロからの退去作業、怪我人の救助、消防士・警察官らの葬儀への参列、救済基金の設立などに精力的に取り組み、ニューヨーク市民と悲しみと癒しを共有したのだ。

テロ発生時にビルの内部にいて救助された人々の驚くべき直接証言に始まり、本書では数々の衝撃的な事実が明らかにされている。アメリカ史上、忘れられぬ同時多発テロ事件を3ヶ月にわたり、詳細かつドラマチックに記録したドキュメンタリーである。

ドリーム

Seabiscuit : an American legend

(by Laura Hillenbrand / Random House / 2001)

体は普通よりも小さく、ひざがまっすぐに伸びず、尾も小さいヒーローらしからぬ馬—それがシービスケットだった。チャールズ・ハワード氏は、1936年に当時4歳のシービスケットを特価で購入し、調教師のトム・スミス氏、騎手のレッド・ポラード氏に預けた。彼らは、シービスケットが実は賢く、スピード力があり、競争



心にあふれる紳士的な馬であることを発見するのである。

1938年、前年の3冠王ウォードミナルとアメリカ競馬史に残るレースを行い見事に勝利を収めたシービスケットは、フランクリン・ルーズベルト大統領やヒトラーよりも報道で多く扱われ話題を独占したのである。

大不況時代にアメリカのヒーローとなった伝説のサラブレッド、シービスケットと、その名馬にかかわった3人の男たちのアメリカン・ドリームを描いたノンフィクションで、全米ベストセラーにもなった作品である。

読書

Gotcha! : nonfiction booktalks to get kids excited about reading

(by Kathleen A. Baxter / Marcia Agness Kochel / Libraries unlimited / 1999)

図書館司書である著者が、若い読者向けのノンフィクション本を350冊ほど選び、ブックトーク（あるテーマに関連のある数冊の本を見せて、本の一部を紹介し、読書への案内をする方法）の組み立て方やアイデアを紹介し、読書を奨励している。教育関係者だけでなく、児童書に興味のある方にもお勧めの一冊である。

随想

地域の小さな出版社の必要

吉備人出版代表 山川 隆之



これほど本が読まれなくなる時代が訪れるなんて想像したこともなかった。

吉備人出版として初めて本を出したのが95年の秋。それから2、3年後にいわゆる「出版不況」が、前年割れという数字で明らかになってくる。

大手書店や取次店の経営不振、倒産が全国紙で報じられた。そうした状況は岡山においてもここ数年、老舗書店の廃業や地元新聞社の出版部門の縮小などという形で現れてきた。

間が悪いというか、本が売れなくなり始めた時期に出版社を興し、本をつくり始めたことになる。こんな時代に地方の出版社なんてどうなっていくのだろう？ 頭のどこかにそんな不安を抱えながら、地域をテーマに地元の著者の本をこの7年間で150点近くつくってきた。

特に最近、書店を回っていると、本が売れないことを肌で感じる。特に小社の本の多くは、地元の歴史や民俗、文化、教育、人物ものなど、もともと地味なジャンルだけに売れる数も地味である。「地元の本だから、たくさん置いて売ってあげたいのは山々だけど、そんなに出不いから……」と、ところある書店さんにとっては悩ましい存在かもしれない。親切な書店さんや取次会社は、「グルメガイド作ったら？ もっと売れるのに」とアドバイスしてくれる。

正直に告白すれば、売れる本を出したいという気持ちを否定はしない。もちろん多くの人に手にとってもらい、読んでもらえるに越したことはない。「売れなくてもいい本を」などとも思っていない。

書店に置いてもらうからにはできるだけ売れるような本にしたいと、価格設定、装丁・デザイン、帯のコピーを含め、あの手この手と最大限頭を使う。売れる本をつくることと、つくる本を売ろうとすることは微妙に違う。このあたりが難しいところだ。

「本が読まれなくなった」とはいわれているが、本を書こう、本を出そうという人は増えている。出版の相談数も年々増えているように思う。

小社のような地域の出版社は、そうした地元で本を書きたい、出したいという人のための窓口である。大学の研究者、地域の歴史を掘り起こしている人、わが子のために絵本を書いた母親、詠み続けた短歌で自分史を綴る老人……本という形で表現したい人はたくさんいるが、どのようにつくり、どうすれば書店で販売でき、図書館に置いてもらえるか。出版には専門的なことも多く、わからないことも少なくない。地方の筆者にとって、小社のような地域の出版社がなかったら、本づくりはもっと遠い存在になってしまうのではないだろうか。地方の出版社には、東京の出版社とはまた違った役割と責任がある、そんなふうにして地域の著者たちと一緒に本をつくり、読者に届けてきた。

そういえば、何かの雑誌にアメリカなどの例を挙げ、「これから出版界はスモールプレスの時代」という記事があった。また、「季刊 本とコンピュータ-2002年秋号」では「小さいから新しいことができる」という小出版社の特集があった。

そうか、やってきたことは間違いではなかった。これからは小出版社の時代だ。特集記事を読みながら、ちょっと気分が明るくなった。著者にも読者にも身近なポジションにいる、そんな地域の小出版社がこれからは必要とされるのだと。

お・知・ら・せ

“全国マルチメディア祭2002 in おかやま”の開催

全国マルチメディア祭は、経済活動や社会生活両面におけるIT活用の実例や最先端の事例等を一堂に紹介することを通じ、自治体、企業、更には広く県民に、それぞれの立場で地域情報化を考える場を提供し、自治体の地域情報化の推進、地域産業の活性化や企業誘致の推進、情報リテラシー向上など、県内はもとより、全国各地域でそれぞれの特性に応じた地域情報化の展開が図られる契機となることをめざします。岡山県総合文化センターもこのマルチメディア祭にて新県立図書館（平成16年開館予定）で公開する「デジタル岡山大百科」（プレビュー版）を出展し、皆様に先

行体験していただくことができます。

開催日 平成14年11月15日(金)~11月17日(日)

会場 コンベックス岡山(岡山市大内田675番地)

ホームページアドレス

<http://www.okix.ad.jp/mm2002/>

お・知・ら・せ

図書館部門・芸術文化部門の年末・年始の閉館日

平成14年末・15年年始の閉館日は次の期間となります。ご迷惑をおかけしますが、よろしく願います。

図書館部門

平成14年12月28日(土)~平成15年1月5日(日)

芸術文化部門(展示室・ホール)

平成14年12月23日(月)~平成15年1月6日(月)

ギャラリー

期間 (週)	第 1 展 示 室		第 2 展 示 室	
	大 室	小 室	大 室	小 室
11/26 12/1	岡山県女流書道展 書120点 岡山県女流書道協会 入場無料	第14回 創彩展 洋画30点・水彩5点 創彩会 入場無料	チャールズ会岡山「秋の作品展」 洋画・日本画等160点 チャールズ会岡山 入場無料	第30回 土筆会展 日本画45点 土筆会 入場無料
12/3 12/8	第9回 生徒作品・表現活動発表会 写真400点・絵画400点・書400点・社会50点・彫刻200点・デザイン200点 岡山市中学校芸術文化連盟 入場無料		第31回 岡山市文化連盟連合展 洋画・水彩画・水墨画・書 他計240点 岡山市文化連盟連合会 入場無料	2002新紀会展 洋画30点 新紀会 入場無料
12/10 12/15	第15回 国際架橋書展(巡回展) 書約500点 特定非営利活動法人国際架橋書会 入場無料		第33回 莞歌社 岡山支部書道展 書90点 莞歌社 岡山支部 入場無料	グループ'90水墨画・日本画展 水墨画12点・日本画21点 グループ'90 入場無料
12/17 12/22	岡山市水墨画連盟展 水墨画150点 岡山市水墨画連盟 入場無料	西部謙慎書道展 書90点 西部謙慎書道会 入場無料	第11回 墨成書道会展 書130点 墨成書道会 入場無料	第8回 いきるかたち展 立体造形・彫塑・油絵・版画 計10点 いきるかたち展実行委員会 入場無料
12/24 1/5	(年 末 年 始 休 館 日)			
1/7 1/12	国画会 岡山作家展 絵画18点・彫刻3点・工芸16点・版画5点 国画会岡山グループ 入場無料	第7回 彩雲会書道展 書100点 彩雲書道会 入場無料	第33回 ギャルド・ファイブ展 洋画30点・平面作品5点 ギャルド・ファイブ 入場無料	
1/14 1/19	第2回 日洋会瀬戸内支部岡山展 洋画50点 日洋会瀬戸内支部岡山 500円・学生300円・小中学生・65歳以上・会員200円		第35回 春秋会書道展 書70点 春秋会 入場無料	岡山水彩作家展 水彩画30点 岡山水彩作家会 入場無料
1/21 1/26	「現代作家の眼」アートウェブ岡山・コラボレーション ポエム 2003 展 会 期：1/22(水)~2/2(日)		第40回 県下高校書道教師による書道展 書40点 岡山県高等学校教育研究会書道部会 入場無料	第8回 ニッコールクラブ岡山支部展 写真80点 ニッコールクラブ岡山支部 入場無料
1/28 2/2	岡山県内で活躍する詩人・美術作家、ペア25組によるコラボレーション展 「現代作家の眼」展実行委員会		第19回 岡山県工業高校デザイン展 デザイン(岡山工高デザイン科・高梁工高デザイン科・インテリア科・東岡山工高設備システム科)400点 岡山県高等学校工業教育協会・デザイン系部会 入場無料	

ギャラリーの開場時間は通常9時から17時です。
団体の都合により、展覧会名称・入場料等が変更されることもあります。
会員.....文化センター友の会及び文化振興会会員

ホール(固定席282席)

日 曜)	催 物	時 間	料 金	主 催 者
11/30(土) 12/1(日)	(第33回 文化センター土曜劇場) びっくり座ユニークシアター&岡山ろう者劇団『夢二』 手話劇「オズの魔法使い」	14:00~ 18:00~ 13:00~	前1,200円 / 小中学生500円 当1,500円 / 小中学生700円 会員 無料	岡山県総合文化センター
12/2(月)	文化センターホール使用抽選会 (対象期間：H15.6~H15.8)	9:00~		岡山県総合文化センター 総務課 文化係
12/7(土)	軽音ロック・就実 ジョイントライブ	13:00~16:00	無 料	岡山軽音ロック 就実女子大学
12/8(日)	ピアノ発表会	13:00~15:00	無 料	さとみピアノ教室
12/14(土)	岡大フォーク・清心パピルス ジョイントコンサート	13:00~16:00	500円	岡山大学軽音楽部 フォーク 清心女子大学軽音部 パピルス
12/21(土) 12/22(日)	第9回 生徒作品・表現活動発表会	未 定 未 定	無 料	岡山市中学校文化連盟 岡山県中学校文化連盟
12/27(金)	関西高校演劇部定期公演 (クリスマス公演)	未 定	無 料	関西高校演劇部
1/12(日)	第24回 岡山人形劇フェスティバル	10:00~(予定)	中学生以上300円 小学生以下100円	岡山人形劇フェスティバル 実行委員会
1/26(日)	ありがとうお母さんの会 ミニコンサート	未 定	1,000円	R K 音 楽 事 務 所

ホールの、楽屋25・舞台96.40・客席196.98・固定席282席です。
使用希望者は、3ヶ月ごとの抽選会に出席してください。
平成14年度のホール抽選会は、6/3(12~2月)・9/2(3~5月)・12/2(6~8月)・3/3(9~11月)ですが、抽選済みの期間で空きがあれば随時受け付けています。
使用目的は、ピアノ発表会・バンド演奏会・演劇公演等、営利目的以外の芸術文化関係の催しに限ります。
上記の催し物は、10月末現在申し込み済みのもので、
主催団体の都合で、中止・変更等の場合もありますので、事前に御確認願います。
会員.....文化センター友の会及び文化振興会会員

催し物案内と文化センターニュースはホームページでもご覧になれます。(<http://www.libnet.pref.okayama.jp>)